



校舎に描かれたきのこ雲のマークの前で写真におさまる古賀野々華さん(右)=アメリカ・リッチランド

アメリカとの戦争で広島と長崎に原爆が投下されて発生した巨大な「きのこ雲」。福岡県の高校3年生、古賀野々華さん(18)は留学したアメリカの学校のマークがきのこ雲と知り、おどろきました。生徒たちはマークを誇りにしています。帰国前に勇気をふりしぶって意見のちがいを動画で発信、世界中から反響がありました。

古賀さんは6月まで1年近く、アメリカ西部リッチランドの高校に留学。マークを見て「日本ではありえない」と思いましたが、最初は深く考えずにマークが入った服を着ていたそうです。

ところが、ある先生と話すと、マークは「長崎のきのこ雲」と知ります。リッチランドは、長崎に投下された原爆の原料「ブル

←アメリカの高校、マークで使用

# 原爆のきのこ雲なぜ誇りに

アメリカの新聞にのった記事を見せる古賀野々華さん=7月、福岡県大牟田市

## 「日本人の思い知つて」動画で発信

**Richard High senior Nakoka Koga, a Japanese exchange student, was last month by the bomb dropped on her home city of Hiroshima.**

**Mushroom cloud logo shocks Japanese student**

**REAWAKE COUNTRY**

**RICHARD, WASH.**

**Nakoka Koga was a little shocked when she arrived as an international exchange student at Richard High, home of the Bobcats. She was the first person from her country to attend the school since World War II ended. "It's even a nuclear-free zone," she said when she moved here from Nagasaki.**

**ATOMICITY GIVES EXCHANGE STUDENT A SHOCK**



## 留学先でショック、福岡の女子高生

トウムを生産して発展した町だつたのです。

「自分がはずかしくて、くやしくて泣いた」と古賀さん。「亡くなつた日本の市民に考えをめぐらせている人はいない」と感じて、学校でつくる動画に出演しました。

動画のインタビューで生徒たちは口々に「マークを誇りに思う」と話します。古賀さんは英語で「雲の下にいたのは兵士ではない市民でした。罪のない人たちを殺すことに誇りを持つもいいのですか」と問いかけ「自分にとつてきのこ雲は、犠牲になつた人と、今の平和を心にきざむもの」とうつたえました。

アメリカには、原爆投下で戦争が終わり、平和になつたという考え方があります。同級生は「動画がなければ、日本側の意見を知る機会は一生なかつた」と言ってくれました。動画はインターネットを通じて世界中に広まりました。

古賀さんは「他の人とちがう意見を尊重する文化が学校にあつたから挑戦できた。日本人の思いを知り、考えててくれるきっかけになればうれしい」と話しています。